

保健部会

研究主題 養護教諭の専門性を生かした学校保健活動の充実を目指して

1 主題について

平成24年度から、小・中学校別に7グループに分かれテーマを設けて研究を進めてきた。各校や校種の健康課題について検討し、学校保健活動の充実を図るため、養護教諭の専門性を生かした指導や、執務の工夫について研究に取り組んだ。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	7月～10月	保健部会（各班ごと） 研究内容の確認とまとめ方
6月27日	保健部会（全体） 今年度の研究内容とまとめ方	11月13日	第2回総合研究会 各班の研究発表

3 研究内容（研究テーマ ①今年度の取組 ②成果と課題）

- (1) 「統合に向けた保健室経営の在り方」（釈迦内小・花岡小・矢立小・二中・花岡中・矢立中）
 - ①「心の健康に関するアンケートの実施」「保健室経営案の作成」「保健管理の引き継ぎや情報収集のための統一した様式作成」「保健室用品、清掃用具、備品台帳の確認」を行った。
 - ②アンケート結果から分かった統合への児童生徒の期待や不安を、他の教職員と共有できた。心のアンケートを継続し、養護教諭の立場から見える気付きを提示し対応を進めたい。
 - (2) 「保健学習における養護教諭の関わり方～T T及び資料提供～」

（桂城小・城西小・城南小・上川沿小）

 - ①保健学習におけるT T及び資料提供について、アンケート調査を行った。「けがの手当て」の指導案や資料を作成して検討を重ね、T Tで児童の指導に当たった。
 - ②いつでもT Tやゲストティーチャーに入れるように、教材・教具の準備や養護教諭間の情報交換が大切である。授業後の協議で指導案を再度見直し、次に生かす研究になった。
 - (3) 「望ましい生活習慣の確立を目指し
～すぐに役立つ保健教材の作成～」（有浦小・長木小・雪沢小）
 - ①睡眠についての教材作成と保健指導を行った。「元気UP大作戦カード」を活用し、生活習慣の見直しを図った。
 - ②教材は、各校の実態に合わせ手直しをして活用したり、資料を持ち合うことによって、情報交換をすることができた。保健指導の時間の確保や、タイムリーな時期の指導が難しい。
-
- 【睡眠の効果をグラフで提示】
- (4) 「生活習慣とメディアについて」（西館小・扇田小・東館小・成章小）
 - ①「生活習慣」と「子どもの生活とメディア」について、アンケート調査を実施し、昨年度の結果と比較考察した。各校の実態に合わせて、集会や講話、保健指導等の取組を行った。
 - ②アンケート調査によって子どもたちの生活実態が明らかになり、学校全体として取り組むきっかけになった。健康な生活習慣の確立のため、継続して指導し、意識化を図る必要がある。
 - (5) 「子どもたちがハッとしてグッとくる執務のアイデア」（南小・川口小・山瀬小・早口小）
 - ①子どもが健康に興味をもつように、視覚的に分かりやすい教材や掲示物を作成した。保健室のレイアウトにも工夫し、安らげる環境づくりを心掛けた。

②実際に見たり触れたりできる教材により、子どもの健康の自己管理につながった。

学校の実態に応じて、年間を通して活用できる教材づくりを進めたい。

(6) 「保健室管理を円滑にすすめるための諸用紙作成と活用」(一中・成章中・田代中・国情中)

①「受診勧告書」のアンケート調査の結果から、望ましい様式を検討した。

②見直すことの少なかった「受診勧告書」を、よりよく手直しする機会になった。これをよりスムーズな保健室経営につなげたい。

(7) 「生徒保健委員会における養護教諭の関わり方

～自主的・実践的な活動になるための指導と支援の在り方～

(比内中・下川沿中・東中・南中)

①「活動時間の確保」「主体性や責任感の持たせ方」「活性化を図るための支援」について他校の取組を参考に、自主的・実践的な活動にするための支援の在り方や評価方法を考えた。

②見通しのもてる活動計画を立て、意図的に委員長との打ち合わせを行うことが大切であり、次の活動につなげるための評価方法が課題である。活動の積み重ねが、個々の生徒や集団を育てる。

(8) 指導助言 (佐藤 勇一 指導主事)

- ・統合に向け養護教諭が連携することは、計画的、組織的な運営につながる取組であり、心の面にも焦点を当て実態調査を行ったことは非常に有効である。継続した調査を行い個々の変容に着目し、保護者も巻き込んで共通理解を図って、問題に対応する必要がある。

- ・子どもが抱えている健康課題に関し、養護教諭の有する知識や技能等の専門性を保健教育に活用することが求められている。「どう意識付けを図り本時のねらいに迫るのか」「知識をどのように実践力に結び付けるのか」を考え、発達の段階を踏まえた目指す子どもの姿をイメージする必要がある。「生きる力を育む小学校保健教育の手引き」を参考にしてほしい。

- ・メディアについてアンケートを実施し結果を昨年度と比較し考察したこと、保健便りや集会、講話、保健指導の実施を関連付けた指導が効果を高めている。

- ・「保健室を訪れる児童生徒に対応するための知識・理解・技能および確かな判断力と対応力」「健康課題を捉える力」「健康課題を解決するための指導力」「企画力、実行力、調整能力」を意識して、学校における健康推進を行ってほしい。

- ・委員会活動は、異年齢集団での活動である。上級生は思いやる気持ち、下級生は尊敬する気持ちを持ち、特別活動のねらいであるよりよい人間関係を築く態度の育成を図ってほしい。

- ・養護教諭は「知：保健指導や保健学習で確かな学力」「徳：普段の保健室経営での心のケアによって豊かな心」「体：様々なデータを提示し、健康な体を大切にしようとする生き方」を培っている。これからも子どもたちが生き生きと活動できるように研究を重ねてほしい。

指導助言 (庄内 理 早口小学校教頭)

- ・養護教諭ならではの視点、アイデアに富んだ実践発表であった。「情報発信」「情報交換」「共通理解と共有」を行い、養護教諭のネットワークを生かし研究を進めてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・健康課題について、各校の実情を踏まえた継続した取組は、効果的な指導につながった。
- ・情報を持ち寄り研究を進めたことで、専門性を生かした実践とその共有につながった。

(2) 課題

- ・研究内容を自校で実践するための、職員間の共通理解や学校全体への働きかけが必要である。